

2015 年度活動報告 交換授業：インテンシブ 2A（漢字）

福富 奈美（関西学院大学日本語教育センター）

瀬井 陽子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

初級の漢字のことばの「意味・使い方」を覚えて、その漢字の「読み」「書き」ができるようになることを目標に、授業を行った。本クラスは、学生が 220 字の漢字及び 350 語の漢字語を学習するインテンシブ pre1A 及び 1A（漢字）レベルの上のクラスに位置し、さらに 253 字の漢字と 350 語の漢字語を学習する。1 週間に 1 コマの授業で、1 学期間に教科書「みんなの日本語初級Ⅱ漢字英語版」の 26 課から 45 課を取り上げた。

2. 授業内容

授業では、新出漢字の提示、意味や読み方の確認、その漢字を使った語彙紹介をした。1 コマで約 30 から 40 の漢字を導入するため、授業中に学生が書き方や語彙を覚える時間は取れなかったが、宿題として復習プリントを配布し、各自が自分のペースで学習できるようにした。新しく学んだ漢字語彙が、どのような文脈で使われているかが理解できるように、復習プリントは文の中の漢字部分を空欄にし、学生が書き込む形式にした。また、漢字の「読み」「書き」どちらも習得することが目標であるため、復習プリントの表はひらがなを漢字に変換する練習、裏は漢字を見て読み方を書く練習という形式にした。また、漢字の書き方や読み方を誤って覚えていた場合に、学生自身が気づけるよう、復習プリントは表裏同じ文章にし、書き方や読み方に迷った場合は自分でプリントの表裏を確認しながら、正しい漢字を覚えられるようにした。

3. 成果と今後の課題

昨年度までは、復習プリントの「読み」「書き」部分の文章が異なり、教師が宿題回収後に間違えた漢字や読み方を朱筆で訂正していた。しかし、そうすると学生が間違いに気づかないまま 1 週間以上経ってしまうという問題があったが、今年度から変えた形式のようにセルフチェックを前提とした復習プリントは学生が書いた直後に自分で書き直すことができ、宿題回収後の間違いが激減したため、効果があったと思う。

授業に関する今後の課題は、毎回授業の流れが単調になりがちだったので、導入の時間をより短くし、授業中に読む活動や漢字を使ってみる活動、学生が教室外で見つけた漢字をシェアする時間、などが取れたらより学生の興味を広げられる授業展開ができたと思う。